

◎令和4年度 亀嵩小学校 学校評価質問項目対応表

| 本年度の重点目標 | 年度努力事項 | 達成のための方策 | 評価指標 | 肯定的評価(%) | | | | 学校経営の重点に関する成果(○)と課題(●) | 学校関係者評価 | 改善計画 |
|--|--|---|--|----------------------------------|------|------|------|--|---|--|
| | | | | 目標 | 教員 | 児童 | 保護者 | | 意見・感想 | 改善案 |
| 【自己肯定感の育成】 人権・同和教育と特別支援教育を基盤とした全教育活動の推進により、自己肯定感を高め、いかめっ子を育成する。 原・毛利 | ①全校朝の会の充実を図り、全校児童・教職員の居場所づくり、一人一人や学級、全校のがんばりやよさを共有する場とし、自分や仲間を大切に作る。 ②得意技披露会をとおして、自分の長所や友達に長所に気づく。また、披露会へ向けての練習に取り組むことで、努力の大切さに気づき、やり遂げた達成感を味わうことで、自己肯定感を育てる。 ③インクルーシブ教育システムの理念に立ち、児童一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な支援を行うことで自己肯定感を高めていく。 | ・委員会による全校朝の会の進行 ・きずなくんコーナーの充実 ・今月の詩と歌の工夫 等 | 全校朝の会が、児童や教職員の一体感や安心感につながっていると思える割合 | 90% | 100% | 95% | 98% | 重点(1) 自己肯定感の育成 ◎取組1「全校朝の会」 ○全校で朝の会を行うことで一体感が生まれる。連絡や指導を全校児童に共通内容を一括に伝えられるので、しっかり伝わる。高学年の動きや発言態度を、低・中学年の児童が見てお手本にしている。コロナ禍において、全校児童の健康状態を全職員が把握できるのがよかった。 ○「きずなくんコーナー」では、友達の良いところ、良い行動、がんばりを全校の前で発表することで、その行いが全校に広がる。自分では当たり前だと思っていることでも、友達が発表することで、自分の良さに気づくことが出来る。「きずなくんコーナー」を継続していることが、児童の自己肯定感を高める要素になっている。 ○発言の内容が友だちと比べても自分の言葉で伝えることを大切に考えて行っている。 ◎取組2「得意技披露会」 ○回数を重ねることに自己を見つめる力(目標設定能力等)が身に付いてきている。自分で場所や技を決める形のエンタリーシートにしたこともよかった。 ○認めてもらえる雰囲気が出てきた(友だちの拍手や励ましの声)。また1人でも自信をもって披露することができた児童が増えた。 ○人権週間の中で第2回得意技披露会を行ったことで、児童がよりねらいを意識することができ、自分や友だちの良さを積極的に発信することができた。 ○児童会(スマイル委員会)の児童が司会進行し、コメントをしたこともよかった。 ◎取組3「一人ひとりを大切に授業」 ○アンケート結果を見ると、肯定的数値が教員100%、児童95%という高い状況であり、取組としては良好であると考えられる。 ○支援員の時間割の工夫や、支援を必要とする児童に関する情報交換や支援方法などのミーティングを行うことができてよかった。 | 概ね良い。 ・効果的な取組が行われている。 | 【自己肯定感の育成】 ◎取組1「全校朝の会」 ・来年度も全校朝の会のすばらしさ、きずなくんコーナーの良さを児童に繰り返し伝え、ほめることで、よい形で継続できるようにしていく。 ◎取組2「得意技披露会」 ・来年度も児童会(なかよし委員会)が司会をするように進めていく。 ・12月は人権週間と関連付けて行い、内容は全て室内に限るとする。エントリーされた技にもよるが、できれば、3日におさまるようにする。 ◎取組3「一人ひとりを大切に授業」 ・次年度は「自己肯定感の育成」の取組ではなく、「基盤の取組」に位置づけ、管理職の統括の下で全校体制での取組とする。 |
| | | | 児童に自分や仲間を大切にしている割合 | 90% | 100% | 100% | 100% | | | |
| | | | 学級や学校が、自分や仲間を大切にしている割合 | 90% | 100% | 100% | | | | |
| | | | 「得意技披露会」の取組などにより、児童の自己肯定感や自立心を高めることができたと思える割合 | 90% | 100% | 91% | 100% | | | |
| 【学力育成】 基礎基本の定着と思考力・表現力を育てる授業のあり方を追究し、本好きで進んで学習するいかめっ子を育成する。 大島・安川・校長 | ④「めあて・学び合い・振り返り」のあるかめっ子スタンダード学習を進め、学習の足跡がのこるノート指導により学び方を身に付けたかめっ子を育てる。また、「聴いて・考えて・つなげる」学び合い学習のあり方を追究し、お互いを高め合い、思考力・判断力・表現力を育成する学習集団づくりをする。小規模校の特徴を生かし、複式学級における学年別指導を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の視点をもった授業改善(国語科物語教材を中心に)に取り組む。 ⑤年間指導計画の中に図書館活用学習を位置付け、読書活動や図書館および新聞活用学習を日常的に推進し、本好きなかめっ子を育てる。 ⑥チャレンジタイムを全校朝の会の終了後の15分間を設定し、読書・計算・漢字の基礎学習の定着を図る。 | ・「めあて・学び合い・振り返り」の学習過程 ・自分の言葉でのまとめ、学習の振り返り ・板書、ノート指導の教員の学び合い等 ・話し合い活動の充実や学習形態の工夫 ・ホワイトボードの活用 ・教科言葉を活用した言語活動 等 | かめっ子スタンダード学習により学び方を身に付けていると思える割合 | 90% | 100% | 98% | 79% | 重点(2) 学力育成 ◎取組1「かめっ子スタンダード学習」 ○めあて・学び合い・ふりかえりのある学習を展開することができた。 ○複式学級でない低学年の学級でも、学習リーダーが学習を進める授業を練習することができた。 ○中学年が高学年の学習の様子を見学したり、低学年と中学年が擬似的な複式学級をつかった学習をしたりすることができた。 ○地域のひと・もの・ことを教育資源として活用することができた。 ○全学級が研究授業を公開し、子どもが主体的に学びを深める授業づくりを目指した。 ◎取組2「読書活動の推進」 ○朝読書一月曜日の朝読書は時間を確保できた。月曜読書の習慣が身に付いている。 ○図書館活用→物語文の学習時に学びのサポーターによるブックトークを開いたり、並行読書がしやすいよう学級図書入れ替えをしたりするなど、図書館活用の実践を全校で取り組むことができた。また、図書委員会と学校司書が連携し、おすすめの本や人権の本など、幅広い本を紹介できた。 ○本に触れる機会の保証→金曜日(または月曜日)に、全員が図書館に行って本の借り替えを行った。教員やおねさんによる絵本の読み聞かせの時間を確保した。学びのサポーターから、おすすめ本の紹介のお便りを定期的に発行した。図書委員会が考えた生活目標で、休み時間などに積極的に本を読むことや、様々な本を読むことを推進することで、期間中に本に触れる機会が増えた。 ○家庭での読書活動→PTA研修部の企画で「輪読」を2学期に行い、同学年の親子が同じ本を読む機会を設けた。 ◎取組3「基礎基本の徹底」 ○いろいろな取組を組織的に行うことができた。 ○チャレンジタイムの算数と漢字を隔週にしたことで、学習時間を確保できた。 ○全校漢字・ローマ字テストの出題範囲を2週間前に示した。進んで学習に取り組む児童が多く、計画を立てて学習する力を伸ばすことができた。 ○「計算の日」とすることで、全校で基礎基本の定着に取り組むことができた。九九以外の取組も充実してきており、スタートできたので、よいものを引き継いでいく。 ○授業や家庭学習の中で、言葉の意味調べを行ったり、短作文作りを行ったりすることができた。 ○「お話しキャッチ」の取組が定着した。文章の構成や要旨を意識して聞こうとするようになってきた。 | 子ども達が授業にしっかりと取り組んでいる。 ・効果的な取組が行われていると思われる。 | 【学力育成】 ◎取組1「かめっ子スタンダード学習」 ・今年度の取組を継続していく。 ◎取組2「読書活動の推進」 ・読んでいる本にゆさがある中で、学年に応じた選書ができるよう「ねこの力」(学年別おすすめの本)の見直しをし、朝読書の本を「ねこの力」から選ぶ期間を設けるなど工夫する。 ・家庭での読書が浸透していないので、親子読書、読み聞かせ等、図書館だよりや学級だよりなどで啓発する機会を増やす。 ◎取組3「基礎基本の徹底」 ・担任以外の職員も、より指導にあたることできるようにする。(ステップアップタイムやチャレンジタイム) |
| | | | 児童が友達の発表を聞いて、自分の考えを深めて発表する姿が見られた割合 | 90% | 100% | 93% | | | | |
| | | | 授業中、児童が進んで話し合いを行い、思考力・判断力・表現力を高めていたと思える割合 | 90% | 100% | 91% | | | | |
| | | | 進んで本を読んだり、本を活用して調べたりしていると思える割合 | 90% | 100% | 84% | 70% | | | |
| 【ふるまい・体力向上】 ふるまい向上を中核とし、「いきいきかめっ子プロジェクト」と運動好きな子どもを育てる取組により、主体的によりよいふるまい習慣と健康・体力づくりに取り組むかめっ子を育成する。 松尾・三原・教頭 | ⑦「いきいきかめっ子プロジェクト」の継続発展と学校保健委員会の取組を通して、健康課題の解決をめざす(「睡眠の改善」を手がかりにした取組)。 ⑧体力向上推進モデル事業で有効であった取組を工夫・継続・発展することを通して、運動好きなかめっ子を育てる。また、年間4回地域を走るマラソンを実施し目標をもち、継続してがんばる心を育てる。練習では走った距離を可視化して運動量を確保し、持久 ⑨学期や年間の重点的に取り組むふるまい目標を児童とともに設定することを通して、「かめっ子ふるまい名人」をめざす。 | ・生活チャレンジシート、ミニ生活チャレンジシート、睡眠日誌 ・「質の良い睡眠」をテーマにした取組(講演会等) ・親子でのメディア学習の機会の設定 ・学校保健委員会の開催、活動 等 | 睡眠をはじめとした生活リズムやメディア接触時間に気づいて生活している割合 | 90% | 100% | 89% | 83% | 重点(3) ふるまい・体力向上 ◎取組1「健康づくり・食育」 ○学校保健委員会(協議)を年度初めと終わりに実施することで、学校医や保健師の専門的な立場からの助言や、保護者の意見を聞くことができた。また、専門医による講演(今年度はほよよクリニックの田草雄一先生)では、医学的な立場から睡眠の大切さをお話していただき、親子で考えるきっかけになった。 ○お弁当の日は回数減らし、4校時の学活の時間もなくなったが、子どものモチベーションは高く、それぞれが自分の力でお弁当づくりを頑張っている。 ●生活チャレンジ週間や、ミニチャレンジシート、睡眠日誌の取り組みが人によって大きく違っており、マンネリ化も目立つ。生活習慣を意識して早い起床・早起きを増やしているが、生活チャレンジの点数の伸びにはつながっていない。 ●今年度は睡眠時間よりも早寝・早起きと課題が見られた。児童への課題意識の持たせ方や啓発活動の内容に工夫が必要である。 ◎取組2「体育の授業づくり・かめっ子マラソン」 【体育の授業づくり】 ○体育授業でめあてとふりかえりを実施することができた。体育授業、体育的行事を通して、多様な運動を経験させることができた。 ●ICT機器(ブックPC)の活用については、有効利用する方法を試行するより、児童同士で互いに意見させる方がよい。 ●新体力テストの結果から50m走(スピード)に課題が見られた。 【かめっ子マラソン】 ○走った距離を歩数計で測定し、マラソンカードに記入した。 ○いこいなわとびでは、なわとびカードを活用することができた。 ●いこいなわの時間の確保が十分でなかった。行事や天候により中止もあつたが、次年度は極力実施する必要がある。 ◎取組3「かめっ子ふるまい名人」 ○各委員会、5年生、6年生でそれぞれのテーマに合ったふるまい目標を決めることができた。 ○毎日ふるまい目標についてのふりかえりを行うことで、ふるまい目標を意識した行動をすることができた。 ○スマイル委員会が主体的にふるまい目標の振り返りの場を設定してくれた。ふるまい目標の意識を高めるいい取組となった。 ○よい子玉の取組を全校で共有する場を設けることができた。 | 中学校は生活習慣の課題が大きいと思われるので、小学校との連携した取組が必要である。 ・保護者には子どもの学校での様子が分かりにくいので、評価がしづらい面があるのではないかと。 ・登校の集合時間に間に合わない子どもがいる。その面からも生活習慣づくりは大切である。 ・家庭には、決められた就寝時刻や起床時刻を守る意識をもってほしい。 ・子ども達には、下校時のあいさつをもう少しがんばってほしい。 | |
| | | | 進んで取り組む体育学習やかめっ子マラソンなどの継続により、運動好きな子が育っていると思える割合 | 90% | 100% | 98% | 88% | | | |
| | | | 「かめっ子ふるまい名人」の取組により、ふるまいがよくなっていると思える割合 | 90% | 100% | 95% | 85% | | | |
| | | | 漢字・計算の基礎学習が定着していると思える割合 | 90% | 100% | 93% | 93% | | | |
| 人権・同和教育の充実 | ⑩互いの人権を尊重する教育の推進と児童の健全育成をめざし、児童・教職員ともに人権意識の向上を図る。 | ・かめっ子を語る会(生徒指導職員会議) ・校内人権・同和教育研修・同和問題学習 ・PTA人権・同和教育研修 ・人権・同和教育授業公開 等 | 人権・同和教育の研修を計画的・継続的に実施し、職員の人権意識を高めていると思える割合 | 90% | 100% | | | ○生徒指導職員会議を活用して、児童の実態や課題に関する情報共有を行い、指導に生かすことができた。 ○夏休みに人権・同和教育に関する職員校内研修を、学習公開日に保護者向け研修会を実施することができた。 | ・中学生が公民館によく声をかけてくれる。これは小学校からの地域と連携した取組の成果だと思う。 ・学校と公民館が連携した事業の様子が、学校だよりなどでよく伝えられている。 | ・次年度は高学年で同和問題学習を行う年度に当たる。専門講師を招いた校内研修を行う。 ・自閉症情緒障がい特別支援学級新設に伴い、職員研修会や保護者研修会を行う。また、児童への理解教育を実施する必要がある。 ・PTA人権・同和教育研修会をPTAの要望をもとに実施することで、教職員や保護者の人権意識の高揚を図る。 |
| | ふるさと教育の充実 | ⑪ふるさとと鳥雲や奥出雲のよさを体験するふるさと学習により、郷土を愛する心を育てる。また、地域教材と教材等との関連を図り、カリキュラムマネジメントを推進する。 | ・地域探検や米作り等体験的な学習での取組 ・地域講師の活用、地域の教育資源の開発 ・地域教材と教科領域との連携を図るカリキュラムマネジメント | ふるさと学習により、児童に郷土を愛する心が育っていると思える割合 | 90% | 100% | 98% | 98% | ○地域連携については、コロナ禍前の姿に近づくことができた。 ○中学年の総合的な学習の時間では、多様な人材活用を行うことができた。 ○「亀嵩・高田の幸福論」や「カメさんサロン」など、亀嵩公民館や亀嵩地区小さな拠点づくり等の組織と連携を図った活動を多く実施することができた。 | ・「町の幸福論の学習」や「カメさんサロンへの協力」など、実際の町づくりに貢献できるように単元構成を工夫する(実施時期の工夫など)。 |
| | 積極的な情報発信 | ⑫経営の重点に関する取組や学級の様子を積極的に保護者や地域に発信し、学校教育に対する理解を得る。 | ・かめっ子マラソン大会ページング放送 ・弁当の日通信「食育だより」の発行 ・保健室だより「にこにこスマイル」 ・学級だより 図書館だより ・学校だより「かめっ子通信」、かめっ子 | 学校の教育活動の様子が、積極的に情報発信されていると思える割合 | 90% | 100% | | 98% | ○学年便り、保健だより等については、各担当から適宜情報発信をすることができた。 ○学校だより、BLOG、動画配信等、様々な形で学校の取組を伝える情報発信ができた。地域からの反応もしっかりとあった。 ○学校評価「情報発信」の項目で肯定的評価が100%となり目標を達成することができた。 | ・各種情報発信の継続を図る。 ・動画配信については、担当者に引継ぎ、無理のない範囲で実施する。 ・学校経営の中心の取組からは外す。 |